

みやぎ復興パーク通信

みやぎ復興パーク活用レポート

エーケー株式会社 編

《起業へのあゆみ》

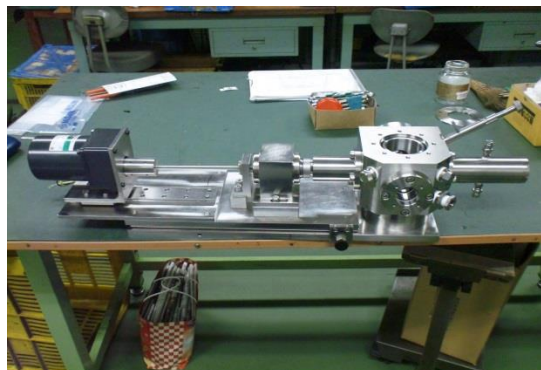
代表者は東日本大震災前、宮城県仙台市の蒲生地区に所在する製造工場で管理職として 19 年間勤務した。同社は精密機械加工・製缶加工を行う従業員 30 名程度の工場で、震災の津波で工場が大破し、幸いにも従業員全員が工場の屋根に避難し、翌朝まで屋根の上に取り残されたもののケガ人も無く、翌日には全員無事帰宅出来た。

それから 2 ヶ月間は復旧作業で大変な思いをしながら、工場再建を信じて従業員全員が一丸となり復旧作業に努めた。しかし、被害があまりにも甚大で、同年 5 月には再建を断念し解散する結果となり、当然ながら従業員全員が職を失った。

代表者は職業安定所に通ったが、希望する仕事には就職出来ないという厳しい現実を目の当たりにし、「勤め先がないのであれば自分で勤め先を作ろう」との思いが次第に強くなり、2011 年 11 月に塩釜市（自宅）で機械加工製造業として起業した。津波により工場や設備は無く、車すら無い状態での起業は、今思うと無謀な起業だったと振り返る。



(キャビテーション装置部品)



(キャビテーション小型装置)

《みやぎ復興パークへの入居》

起業後1年間は、自宅を拠点に協力企業に加工を依頼し、顧客に加工品を納める仕事に取り組んだが、納期対応・品質維持の点で限界を感じ、業務拡大も難しいと考えていた。この様な時に、仙台商工会議所より汎用工作機械の無償貸与の支援を受け、同時に「みやぎ復興パーク」内に工場設立を図ることができるチャンスと巡り合えた。

2013年9月に正式契約を交わし、みやぎ復興パークに入居。汎用工作機械無償貸与と工場の設立により業務拡大の下地が出来、従業員2名を雇用し、特殊装置品の製作に着手した。同年12月には東北大学祖山教授指導の下、キャビテーション噴流試験装置の設計・製作を行い、大阪の某ポンプメーカーに納入するまでに成長した。

2014年3月に真空装置品を設計・製作、4月以降も2機種の装置品の設計・製作を行った後、10月には当機構が実施している被災地の創業者にスタートアップ資金を助成する「[被災地再生創業支援事業](#)」の支援を受け、更なる成長を遂げた。

「みやぎ復興パーク」に入居後、装置品の製作で売上を大幅に伸ばすことが出来たが、設備の関係上、加工内製化率が低く、外注費負担が重くのしかかっていたのが当社の課題であった。2015年5月に「ものづくり・商業・サービス革新補助金」に採択され、マシニングセンタの工作設備拡充を皮切りに、同年10月に三次元測定機、2016年1月にはNC旋盤と、次々と工作機械の設備投資を図ることが出来た。



(三次元測定機)



(マシニングセンタ)

《更なる飛躍を目指して》

設備拡充によりやっとスタートラインに立てた当社は、外注対応で難しい試作加工品・短納期品等、内製での対応が可能となった。今後は、オンリーワン技術の模索を図るとともに当社の持ち味を生かしたものづくりを進めて、当機構が今年度から開始した「[宮城県WEBマーケティング強化支援事業](#)」を活用してホームページを立ち上げ、新規顧客の開拓、雇用の創出、地域社会への貢献へと更なる飛躍を目指す。

＜エーケー株式会社様からのご挨拶＞

当社は 2015 年 10 月で 4 回目の決算を終え、5 期目を迎えることが出来ました。「みやぎ復興パーク」に入居させて頂き 3 年目を迎えております。みやぎ産業振興機構をはじめ、中小企業団体中央会、仙台商工会議所、塩釜商工会議所、日本政策金融公庫の皆様のご支援・ご協力を頂き現在に至りました。また、東北大学をはじめ、多くの取引先よりご支援を頂き、ご支援・ご協力を頂きましたすべての方々に深く感謝申し上げます。微力ではありますが、地域振興に少しでもお役立ち出来る様、頑張っていく所存でおります。また、お客様を通して業界に少しでも貢献出来ればと考えております。

今後は社員一同、チャレンジ精神を忘れず努力してまいりますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

＜エーケー株式会社のお問合せ先＞

〒985-8589

多賀城市桜木三丁目 3-4-1

みやぎ復興パーク F-21 号館 1F

Tel 022-354-0468 Fax 022-354-0469

【発行及び復興パーク通信のお問合せ先】

公益財団法人みやぎ産業振興機構 産学連携推進課

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目 14 番 2 号

TEL 022-225-6638 FAX 022-263-6923

(みやぎ復興パーク・平成 27 年 12 月の状況)

○入居者数・・・・・・・・ 27 団体 (入居率 57%)

○見学・視察件数・・・・ 7 団体 46 名 (当年度累計：34 団体 634 名)